



競大奇遺

1805
1-5





散字其首其取笑於大方君

所兵

文化身二乙丑夏五月

伏瞻 山中辰仲龍



蘇...
...
...
...



數字其首其取笑於大方君子者亦其所矣

文化弟二乙丑夏五月

伏瞻 山中辰仲龍撰



明治二十一年四月廿四日
藤野漸

競奇遺聞 第一卷 目錄

都 藍 尼
 阿古野松
 深砂大王
 繪馬神
 金烏玉免集
 殘夢長壽
 淨藏貴所

第二卷

禁把戒邪淫僧尼

第三卷

回船漂流

第四卷

天狗

巨勢金岡

生馬仙人

唐船漂着

第五卷

陽勝仙人

道場法師

小野篁

申樂

赤山明神

競奇遺聞 卷の一

都藍尼



藤野潔氏遺愛之印

都藍尼にと和州の人形にりは仙法を精修しては仙術を
 學ぶに吉野山の林に居りては世に傳へわる令に叡山に黄金の
 地に令に別に藤王を護りて婦人の宅に入りて容をさげ
 都藍のいふも女身なりといふ下も淨戒を盡し威を山に豆を九に女の族を
 比せんやとて令に峯に坐するに忽ち雷を電を晦して迷つて路を
 亡く持たすの杖を弃つ共に杖をおのづく殖す大樹をとり都藍
 又は龍を呪ふしてふれふふくふふ昇る縁の泉に到る

進む事を得むとて、ま初ま^{いふ}嶺を踏む^{ふみ}と皆とく
岩^{いわ}の共^{とも}流^{なが}を羨^{うらや}み池^{いけ}當^{あた}下^{した}ふりりけ二^{ふた}の^{つら}跡^{あと}今^{いま}當^{あた}存^{ぞん}在^{ざい}
世^よふりよ長^{なが}生^{せい}の道^{みち}得^えを其^{その}終^{はつ}を断^{つぎ}を去^さる^る流^{なが}八^{やち}十一^{いち}
鱗^{りん}九九^{くじゅう}の敷^{しき}一^{いち}三^{さん}五^ごを九^くとて老^{らう}湯^{とう}の能^{のう}変^{へん}とる^{とる}あこ
葉^{せう}公^{こう}龍^{りゆう}を畫^えもて流^{なが}死^しる^る費^ひ長^{ちやう}房^{ぼう}八^{はち}竹^{ちく}の杖^{づゑ}を昔^{むかし}破^{やぶ}り
投^なれ^る化^けしと龍^{りゆう}とあ奴^{やつ}

河野松

一條院^{いちじょういん}中^{ちゆう}に藤^{とう}實^{じつ}方^{ほう}不^ふ教^{きやう}小^{せう}座^ざきりて奥^{おく}州^{しゅう}より
とせりて事^{こと}一^{いち}とせりり和^わ秋^{あき}の名^な本^{ほん}を註^{しゆ}して石^{いし}杖^{づゑ}と

なりぬ河^か古^こ井^{せい}の松^{しょう}を^{なづぬ}る^るに^ま智^ち人^{にん}好^{こう}一人^{ひとり}の箱^{はこ}けりて実^{じつ}方^{ほう}
小^{せう}河^か古^こ井^{せい}の松^{しょう}は出^で羽^うま^まゆり^り奥^{おく}羽^うは^はひ^ひ一^{いち}州^{しゅう}ありて今^{いま}二^{ふた}筋^{すぢ}
と盤^{ばん}より実^{じつ}方^{ほう}羽^う羽^う小^{せう}井^{せい}と河^か古^こ井^{せい}の松^{しょう}を^{なづぬ}る^るに^ま智^ち人^{にん}好^{こう}一人^{ひとり}の箱^{はこ}けりて実^{じつ}方^{ほう}
四^し井^{せい}之主^{のちゆう}後^ご実^{じつ}方^{ほう}馬^ま心^{しん}を^{なづぬ}る^るに^ま智^ち人^{にん}好^{こう}一人^{ひとり}の箱^{はこ}けりて実^{じつ}方^{ほう}
と^{なづぬ}る^るに^ま智^ち人^{にん}好^{こう}一人^{ひとり}の箱^{はこ}けりて実^{じつ}方^{ほう}馬^ま心^{しん}を^{なづぬ}る^るに^ま智^ち人^{にん}好^{こう}一人^{ひとり}の箱^{はこ}けりて実^{じつ}方^{ほう}
一條^{いちじょう}の山^{さん}出^で毛^{もう}云^{いひ}路^ろ道^{だう}祖^そ神^{じん}の娘^{むすめ}之^の密^{ひそ}に高^{たか}人^{ひと}小^{せう}通^{とう}を^{なづぬ}る^るに^ま智^ち人^{にん}好^{こう}一人^{ひとり}の箱^{はこ}けりて実^{じつ}方^{ほう}
故^こ小^{せう}放^{ほう}逐^{しゆく}や^{なづぬ}る^るに^ま智^ち人^{にん}好^{こう}一人^{ひとり}の箱^{はこ}けりて実^{じつ}方^{ほう}馬^ま心^{しん}を^{なづぬ}る^るに^ま智^ち人^{にん}好^{こう}一人^{ひとり}の箱^{はこ}けりて実^{じつ}方^{ほう}
造^{つく}りて神^{かみ}前^{まへ}小^{せう}掛^かる^る小^{せう}必^{ひつ}靈^{れい}護^ごありて今^{いま}中^{ちゆう}に河^か古^こ井^{せい}を^{なづぬ}る^るに^ま智^ち人^{にん}好^{こう}一人^{ひとり}の箱^{はこ}けりて実^{じつ}方^{ほう}

後(實方)云然(則)出(れ)下(品)の(女神)なり(何)を(馬)より(下)ん(や
と(し)行(小)実(方)の(馬)傍(に)斃(死)ぬ(實)方(も)ま(ま)を(固)て(社)
乃(倒)に(葬)る(を)靈(化)し(て)雀(を)以(て)死(来)り(王)城(北)西
觀(學)院(に)飛(鳴)と(せ)せ

深砂大王

世(神)と(流)支(三)藏(天)竺(より)一(切)經(を)持(し)て(來)り(て)
跋(沙)を(こ)こ(る)事(一)成(遂)し(以)て(見)と(あ)た(に)け(神)
忽(然)と(て)現(し)船(筏)を(こ)こ(る)や(と)も(あ)ら(ず)し(心)
泰山(府)君(も)祐(比)社(と)日(光)神(橋)の(向)ひ(小)宮(居)有(類)ハ

大明(院)一(品)准(后)法(親)王(の)御(業)之(本)地(毘)沙(門)天(神)橋
を(護)り(又)大(坂)新(波)村(天)王(の)神(宮)寺(を)深(砂)寺(と)云
又(證)驗(寺)の(境)内(小)深(砂)大(王)の(祠)あり(通)て(大)小(群)衆(を)

繪馬神

道(公)法(師)天(王)寺(に)居(て)法(善)を(持)し(奉)事(あり)
嘗(て)慈(母)小(宮)居(以)夏(終)く(奉)事(小)深(砂)に(昔)小(一)村(を)
こ(居)宅(る)一(大)樹(の)下(小)宮(と)り(に)水(半)針(小)騎(馬)の(若)
二十(餘)人(樹)下(こ)り(て)人(を)念(ふ)云(氣)を(り)や(何)ぞ(す)と
ゆ(る)也(等)く(馬)足(損)し(て)氣(を)こ(る)何(ぞ)老(衰)て

徒を歩のゆるり能らひは跡なきまゝる由且小道公怪んで
 樹下の巡りまゝるに小神祠あり其像朽弊る文前
 行板の上小馬形を圖しゝるなり前足の取も板
 破列れ道公とありしををりて怒禱小神の言と
 誠んと欲しそ次の東尚樹下小宿に宿す小龍跡ありて
 又鳴よ龍馬小亭ありて出程を曉小向うく公氣後たつて
 謝しそ玄師の賜を承りて馬御を後を幸ふ地はいつて
 耳聾をゆりて道公小餉も道公問うて先の教誨を令
 公氣言く何とこそ行疫神なり神管内を巡り小これ

前驅をも多し出され必答をきて罵る今師の恵を蒙り
 くと毒考又師一我を玄師小をむりりは身小驅四罰を
 受る事一我を玄師預ハ師は樹下小居る三束三日妙法
 善を誦し我劣報法精して淨妙此を均せよ道公
 此れを憐れんて三日誦經は第四日小神頭面を出し
 此禮しそ玄師の慈力ありて神陀洛迦山小生し
 観世音孔眷属する事と均せり預ハ師は本草を
 与つて舟をり我本像を削て海上小流め道公
 教のこゝろ海小浮む微風も起す小勿心南を

さして馳^{スセ}仍^シ車^ヲ一^ト免^ガぶ^ル一^ト其^ノ來^リ村^ノ里^ノ老^シサ^ハ復^ス
る^ル樹^ノ神^ノび^ラら^フの^ノ成^リ相^トら^ルて^テ金^ノ色^ノの^ノ光^ハ照^シ耀^ス
一^トて^テ南^ノ方^ノ小^ノ免^ガ去^ルと^シ道^ノ公^ノ寺^ノ小^ノ免^ガつ^テ語^ル小^ノ國^ノ老^シ大^シ小^シ
嗟^サ嘆^タす^ト

金烏玉免集

陰^{オン}陽^{ヤウ}家^カ小^コ一^ト著^シり^リ名^ヲづ^クけ^テ人^ノ金^ノ烏^ノ玉^ノ免^ノ集^ノこ^ノつ^テ又^シ
簾^カ簾^カ神^ノ裡^リ傳^ヘも^トつ^テあ^レ安^ノ信^ノ博^シ士^ノ晴^メ明^ノ朝^ノ臣^ノ勅^ヲを^シ
奉^ルて^テ陰^ノ陽^ノを^シ占^ムい^テ中^ノの^ノ災^ヲを^シ消^スと^シ正^シ位^ノ總^ノ敷^ヲ
小^ノを^シひ^テ陰^ノ陽^ノ持^シ士^ノ主^ノ計^ヲ控^シ少^シむ^ル初^メ免^ス晴^メ明^ノ法^ヲ西^ノ小^シ

赴^キた^リ薩^ノ州^ノ小^ノ免^ガ船^ヲ一^ト支^ナ那^ノ小^ノ往^ク雍^ノ州^ノ小^ノ免^ガり^テ荆^ノ山^ノ
小^ノ伯^ノ道^ノと^シつ^テ妻^ヲ何^レり^テ自^ラ云^フ文^ノ珠^ノ大^ノ士^ノの^ノ天^ノ理^ヲを^シ得^ルり^テ
晴^メの^ノ就^ルく^テあ^レを^シ学^ブよ^ク一^ト書^ノの^ノ書^ヲ出^シ與^フり^テ文^ノ珠^ノ裏^ノ書^ヲ
陰^ノ陽^ノ内^ノ傳^ノ集^ノと^シつ^テ晴^メの^ノ受^ケて^テ本^ノ邦^ノ小^ノ免^ガり^テ秘^シし^テ
石^ノ画^ノ中^ノの^ノ簾^ノ簾^ノ小^ノ免^ガて^テ用^ガる^ル筆^ヲ日^ノ久^シ一^ト晴^メ明^ノが^シ
子^ノ道^ノ滿^チあ^レを^シん^トと^シ欲^スと^シれ^ルも^ト得^ルと^シ道^ノ滿^ノ私^ノ子^ノ
晴^メの^ノ妻^ヲ妾^ト梨^ノ花^ノ小^ノ通^シび^テ晴^メの^ノあ^レを^シと^シて^テ梨^ノ花^ノ
ひ^をふ^ル道^ノ滿^ノあ^レを^シし^て即^チか^ノの^ノ書^ヲを^シ写^シて^テ封^シ秘^ス
一^ト故^ノの^ノゆ^ゝ一日^ノ道^ノ滿^ノ晴^メの^ノあ^レを^シし^て口^ノれ^テ復^ス小^ノ文^ノ珠^ノを^シ



松坐寫



遇あくひ秘書しをた編まみ其こ名んをきん金鳥う玉ぎ免ま集じとて天地てん
 際あのか教く手て裡りもらるることと〜し清明せい云ん予んもし〜
 伯道はく師し小徒せうあらくけ書しをかけり秘ひ〜と簠ふ簋き
 あり故ゆ予ん号ごう改か〜と簠ふ簋き袖そ裡り傳でんとし世せ豈あ是ら
 をまるる人にあら〜と汝に夢ゆめのま妄まう想さう特とく倒たう〜と金きん玉ぎを
 けるとまるる者ものあら〜と中ちゆう少せう立たつやと道だう滿まん甚しん争しやうあら〜
 遂すい小頸せうをけ削けられん半はんをけ財ざいあら〜と道だう滿まん手てを
 出し〜と晴せいのし頸けいをせ截せらる時とき小荆せう山さんのし火か小令せうよと伯道
 られを怪ん〜穀こく成じやう山さん小大せう山さん王わう秘ひ法ぽうをぎ行ぎやうを晴のし

死し〜と半はんをし知ちり則孫そん邦ぱう小渡せう〜と人にんあら〜と晴せいのし墓ぼ
 小せうのし心しん哀あい慕ぼ〜と遂すい小墳せうをせ終しゆう〜と孫そん骸がいを集め皮
 肉にくを補ひ骨節せつを續〜と生せい活かく續じゆく命めいのし法ぽうを修正しやう晴
 明せい獲え生せい伯道はく道だうあら〜と快かい笑せう〜と小せう放はう〜と伯道
 道だう滿まんが宅あら〜と回かいて云晴せいのし其こやと吾わが道だう滿まん答た〜
 其こ人にん竹ちやく林りんの中ちゆう小せうのし事じ小せうのし事じあら〜と道だう滿
 争しやう〜と晴せい明めいのし生せいをバ孫そん頸けいを削〜と半はんを財不ふせひ
 伯道はく云ん汝に争しやうのし事じ晴せい明めい死し〜と已い小せう〜と世よのし人にん

初より相物し時辰出する道満大小違ふく
遂小自頸刻く死次

残夢長夢

奥州小砂後とて者有り自字とて呼白とて号と
秋風を人々柱に傳ふに信那を風顛狂れ
男二一休を友とて禪要を好むとて又時く人と語る
元暦文治の事を語りて或とて時義經ハ
何をもするに毎昔又とて事をとて誰ハけりともり
平氏と某が戦ふとて話貽親身人の者のごとく

人怪んであれを語るとして口れあを志しとて
傍の天海及び松雪とて若砂及小偶了強及常
小好んて枸杞飯を食ひ天海もまうとて事とて豊次
人と語ると云強及長生の事を速少とて杞杞
を腹する也人怪んでかまハ蓋常陸房時人や
天海と又枸杞を食し一意小任を付小侍とて
とて事とて事とて事とて事とて事とて事とて事とて
あれ事命とて延る事とて事とて事とて事とて事とて
尼と事とて事とて事とて事とて事とて事とて事とて

修しゆ一いつ處ちよ不ふ到たう系けい不ふ殆たい一いつ方ぽう地ち也や一いつ別べつ世せ界かい之の人にん
 一いつ物ぶつをを与よつてと云い是こゝ人にん臭くさへへれを食を食くまるとと見み八はち年ねんをを
 延のび考かうをを度たととりり父ちち推おしりりとと教おしめめしし其その女を子こ送おくり致して
 衣い帯おびををととりり人にん魚ぎよをを油あぶらのの裏うららら出いでで一いつ則すなはちち食をさ
 一いつむむそそ女を子こ四よ百ひゃく余あまり年ねん一いつもも白しろ髪かみ五ご危あやややとといいふふ
 越こ前まへ由よし不ふ丈ぢやう男なんとといいふふののりり有あ時とき海うみ山さんふふ入いりり
 本もとをを依よるる小こ渴かつ甚しん一いつ大だい樹じゆのの孔あなららをを見みててみみるるみみるるみみるる
 源のをを内うち小こ水みづありりすすままらららら既いとと依よるるみみるるみみるるみみるる
 其その味あじ清せい涼りやう也や一いつとといいふふ人にん男なんのの水みづふふりり一いつ度たび一いつ度たび不ふ

救すけ百ひゃくのの妻よめをを好このむむ

淨じやう藏ざう貴き所しよ

淨じやう藏ざう貴き所しよハハ之の昔むかし教おし匠しやう清せい涼りやう一いつ弟だい八はちのの子こ之の洛らく陽やう
 のの人にん寛かん平へい之の子こ小こ生なまるる母ははとと婿むこ家け帝ていのの孫まご女を子こ淨じやう藏ざう
 生なまれれてて四よ葉はありりとと千せん字じ又またとと誦じゆとと一いつとと耳みみてて十じゆとと知しるる
 聡そう明めい絶ぜつ倫りんととりり七しち葉はののままののとと一いつ免めん之の庭ていのの妻よめ也や
 小こ生なまるる淨じやう藏ざう神かみ人にんをを一いつとと下した枝えだををおおてて父ちち小こ呈ていとと
 父ちち大だい小こ幸きやう那なりりととりり淨じやう藏ざう指さし前まへ山さん小こ生なまるる淨じやう藏ざうをを多たくく
 出いでで一いつとと知しるる又また一いつとと知しるる淨じやう藏ざうをを海うみへへ送おくりりり仙せん人にん也や

船を乗る者ある戯山子宅にて玄昭の許りたる僧の長衣
小舎り波斯國より漂來其胸痛と患ふ津花
あねを哭くそ已し心甚痛嘆く曰く茲國小かくの
如き異人何んぞ津花後小毒と憂く二子を生む
名を布能伊能と云ふ今や布能伊能の二氏
後く少なり天曆年中八坂塔傾斜し其石函
有りて是れ半王城小向小官人靈能て憂ふ
津花あねを初ふ微風吹来く室澤小毒有り
あふ終く塔忽ち小塔垂す人々亦異之と

津花二子を膝の上小座せし免鴨川小むつて持て
須臾あつて河氷逆流を又隣家より枕の實多記
有り二子あねをそんと初と津花呪をねを枕自ら
忍ぶる津花八坂寺小寓する所盗多く入る津花
あねを吐く賊等麻本を揺る且小呪縛を解け
盗人礼を乞ふて去る父の書行率次津花態
より軍へ上洛を檣小一條堀川を遇ふ津花
止めく蘇生さしむけ所を廢り後くあは奇異
志野一牧奉とてり次津花ハ持物の人こ

學内外を兼修兼修密密小治小治りり悉悉皇皇天文天文易易筮筮醫醫
 卜卜結結管管音音律律文章文章伎伎藝藝之之多多貫貫橋橋てて拔拔萃萃以以
 康保元年仲冬廿一日康保元年仲冬廿一日在在山山中中居居也也小小拙拙以以其其末末の
 七十四

競奇考選 卷の一終

